※ 風 鈴 問 答

昔、ある村に母と子の二人がいた。母は人の言うことになんでも反対する人であった。息子が大きくなって嫁をもらったところ、嫁は姑よりもうわ手で、白いといえば黒い、黒いといえば白いと姑にまけない程だった。

あるとき、寺の前に芝居がかかった。姑が芝居を見物に行こうといったら、嫁もいくといって二人ででかけた。二人がそろって寺の前まで来たら、寺の廊下で風鈴がなっていた。嫁はお母さんフラシャラリンがよくなることといったら、姑はいやあれはシャラフラリンだといった。二人はちがう、ちがわないといい争ったが勝負がつかない。姑は小便にいくふりをして寺に入って、和尚にわけをいって勝たせてくれるよう木綿一反を買っておくった。嫁も姑のいない間に三百文をおくって和尚にたのんだ。

姑はいつも反対するが、今日は和尚に白黒をつけてもらおうとでかけた。嫁は三百文、姑は反物をつかませているからだいじょうぶと思って、嫁が和尚さんフラシャラリンだんすなといったら、和尚はいや違う、それは一反三百ソンプラリンだといった。